



卓球王国連載パック“ePAC.”

# 全日本卓球選手権大会

(2013.1 / 平成24年度)

## チャンピオン インタビュー 丹羽孝希・福原愛

【REAL! TT 速報 全日本2016.1】バージョン

卓球王国2013年4月号(vol.191)に掲載した、平成24年度(2013年1月開催)の全日本卓球選手権シングルスチャンピオンインタビュー(丹羽孝希・福原愛)、全12ページ(e Bookで追加した扉や余白を除く)をまとめた。

卓球王国



## 【王国 e book】について

● この【王国 e book】(e PAC.)は、月刊『卓球王国』誌に掲載された連載やシリーズをまとめたパックです。

● **閲覧は、卓球王国WEB【REAL! TT 速報 全日本2016.1】で有料速報をご利用いただいている方の、個人的な利用に限らせていただきます。** 商用利用、複製したファイルの譲渡、販売、ネット等での配布を禁止します。PDF から一部のデータを抜き出したものについても同様です。

● **本ファイルの複製は原則禁止**です。ただし、お買い上げいただいた方の個人利用に限り、ご自身所有の複数の装置（パソコン、タブレット等）にコピーして閲覧することが可能です。

● お問い合わせは、卓球王国WEB「お問い合わせ」フォーム（トップページ画面左下の青字リンク）から、もしくは以下宛にお願い致します。

（株）卓球王国  
電話 03-5365-1771

見開き表示の  
右ページ

## 閲覧に際して

● PDF形式による電子書籍で、パソコンやタブレットなどでご覧いただけます。PDFの閲覧には「Adobe Reader」またはその他のPDF閲覧ソフトをご使用ください。

● パソコンのモニタで閲覧する場合、ページ表示を「見開きページ」に設定すると、実際の冊子のように見開き表示で見やすいでしょう。タブレットで閲覧する場合は、「単一ページ」のほうがサイズ的に見やすいでしょう。

● 「Adobe Reader」で見開き表示する場合、以下のように設定してください。設定に関する詳細は、「Adobe Reader」のヘルプ等をご覧ください。

① [ページ表示]メニューで「見開きページ表示」にチェックを入れる。

② [ページ表示]メニューで「見開きページ表示で表紙を表示」にチェックを入れる。

見開き表示では、本ページが左ページ、前ページが右ページに來れば、実際の雑誌と同じ配置になります。もし左右が逆に表示される場合は、「環境設定」(Windowsでは[編集]メニュー内、Macでは[Adobe Reader]メニュー内)の「言語」で、「デフォルトの読み上げ方向」を「右から左へ」に設定してください。

見開き表示の  
左ページ



1

Men's Singles WINNER

今回全日本で優勝しましたけど、オリンピックの悔しさは全然消えていない

**優勝**

を決めた翌日、都内に泊まっていた丹羽孝希のもとを訪ねた。激戦の翌日だというのに、まるで何事もなかったかのように、ジャージにダークグレーのパーカーを着て、部屋から下りてきた。疲れも見せず、かといって興奮している様子もなく、遅い朝食をとりながらのインタビューは始まった。

初優勝おめでとう。優勝の実感は沸いてきましたか？

丹羽 オリンピックの後、ずっと目標

にしてきたので優勝はうれしいけど、チャンピオンとしての実感はないですね。

——今、オリンピックという言葉が出たけれども、相当な重圧の中で戦ったロンドン五輪から半年間経ちました。今振り返るとどうですか？

丹羽 ぼくら3人（水谷・

岸川・丹羽）はオリンピックでのメダルをずっと目指していたのに、そこで韓国やドイツではなく、香港に負けたというのが一番悔しかった。韓国やドイツの対策をたくさんやっていたの

# 丹羽孝希・青森山田高

# Koki Niwa

に、そこまで行けなかったことがすごく悔しかったんです。

——あの香港戦で、ダブルスは勝てる試合から逆転されたし、ラストのシングルでも負けてしまった。

丹羽 ダブルスは取らなければいけないかった。ラストのシングルも勝つ自信はあったし、1ゲーム目を取って良い流れだったけど、相手は思ったよりも冷静で最後まで崩れなかった。本当に悔しかったです。選手もスタッフもそこに賭けていたから。

——初めてのオリンピックは特別なものだった？

丹羽 台が4台しかなくて、世界選手権とは全然雰囲気違ったし、ぼくは団体からの出場だったので会場に慣れない面もあった。緊張よりもプレッシャーが強かったですね。

——その悔しさはこの全日本まで続いていったらどうか。ロンドンで丹羽君自身が何か変わった点はあったのだろうか。

丹羽 オリンピックの敗戦を無駄にたくなかった。今回全日本で優勝しましたけど、オリンピックの悔しさは全然消えていない。オリンピックの悔しさはオリンピックで返したいと思ってるので、全日本とは別。オリンピックには良い思い出はないですから。

——オリンピックが終わって、日本に帰って、1週間くらいしてからドイツに行きましたね。以前、話を聞いた時には、あまりヨーロッパのプロリーグには興味がないと言っていたけど。

丹羽 初めてのドイツ（ブンデスリーガ）ですけど思った以上にいいですね。試合のレベルも高いですから。本当は行く気がなかったけれど、邱（建新）さんから誘っていたら、1回行ってみようかなと思って行きました。

生活と言っても卓球しかやることがない。ぼくはずっとドイツに行きっぱなしは好きじゃないし、結構日本に帰ってきています。ブンデスリーガには世界のトップ選手がいるし、今は勝っているから楽しいし、チーム（フリッケンハオゼン）が4位なのでもっと勝って貢献したい。練習相手は日本のナショナルチームでやるほうがレベルは高いと思うけど、ドイツは練習環境も違うし、ぼくにとってはドイツでやるのも日本でやるのも両方意味がある。ドイツでは邱さんが練習メニューを全部考えてくれるので、それもいいかなと思います。

——ロンドンの敗戦で負った傷も、時間が経ち、ドイツに行ったことで少し小さくなったのかな。

丹羽 時間が経てばそうかもしれないけど、ドイツに行ったことは関係ないと思います。ドイツに行ってもオリンピックのことはずっと考えていました。

——そういう中で全日本を迎えたけど、ドイツから日本に戻ってきたのはいつだろう。

丹羽 12月31日です。11月11日に日本に帰ってきて、また12月20日にドイツに戻った。12月29日に試合がありましたから。



優勝したからといって、この少年の何かが変わったようには見えない。全日本を初制覇した丹羽孝希は、高ぶることなく、冷静に試合を振り返った。クールなこのプレーヤーのどこかに熱くたぎるものがあるはずだ。しかし、それを見せないで最後に爽やかに笑った。丹羽孝希のポテンシャルはまだまだつかめない。

「別にチャンピオンになっても変わらないです。今回の全日本で勝っても次の大会で負けたら意味がないと思っています」





——全日本までの調整はどうでした？

**丹羽** 全日本前は集中はしていたけど休みも多く入れました。去年優勝した吉村さんの優勝インタビューで、あまり練習しないで調整していったら良かった、というのを読んで、ほくもそのやり方で行こうかなと思いました。集中する時はしっかりやって、休む時はしっかり休んだら疲れもなかったし、体も結構軽かったです。大会の初日は少し体が重かったけど、最終日やダブルスの決勝の時とかは良いプレーができました。

今までは少し練習をやり過ぎていたけど、休む時は休んでというように調整している時のほうが勝っている気がします。

## 6、7ゲーム目になったら

相手も絶対緊張してくるから、こっちから先に仕掛ければいい

## 10年

ユース五輪での金メダル獲得、11年世界ジュニア選手権での優勝、そしてロンドン五輪出場と、ここまで順調に成長してきた丹羽孝希。しかし、ロンドン五輪で屈辱的な敗戦を喫し、その後、ドイツのブンデスリーガに参戦した。新しい環境での挑戦が、結果的に丹羽の成長をさらに促したことは事実だろう。

ドイツと日本を行き来しながら迎えた全日本選手権。今までの丹羽の卓球とひと味違うところを彼は日本のファンに見せた。



決勝でも静かな闘志で自分のプレーに集中する丹羽

——今大会を振り返ってみましょう。

2試合目になる5回戦で松下（明治大）選手にゲームオールと苦戦したね。

**丹羽** 相手はサーブミスがうまかったので焦ったし、軽部（シチズン）さんが来ると思っていて、全然情報もなかったのでも、やりづらかったです。危なかったです。卒業後に明治大に入るので明治の人には負けられないなと思いました。

——6回戦で坪口（長崎県スポーツ専門員）選手に勝ち、準々決勝には平野（明治大）選手が上がってきた。

**丹羽** あそこは、吉村（愛知工業大）

さんか塩野（東京アート）さんが来ると思っていた。特に塩野さんには合宿でも勝っていなかった。ほくのところはシード選手が次々と負けてしまっただけ、ほくの考えていたことと違っただけ、そういう中で勝てた。ベスト4を狙っていたので特に平野さんに勝って良かった。

——そして準決勝の相手はダブルスのパートナーでもある松平健太（早稲田大）選手だった。

**丹羽** 健太さんには去年も全日本で負

けている。その後、選考会、ドイツオープンなどでは勝っているけど、全日本で負けたら意味がないから今回絶対勝ちたかった。健太さんは選考会やワールドツアーの時よりも強かった。全然戦い方が違っていました。チキータを多く使われて、他の選手とは回転量が違うから全然取れなかった。やりづらかったけど、もし岸川さんが勝ってきたらもっとやりづらかった。岸川さんには勝った記憶がないですから。

健太さんの時にはチキータが嫌だったので、チキータをさせないようなサー

ビスを出したり、そのチキータを1、2ゲーム目は狙ったけど、入らなかったので、バックに入れにきました。最後は相手もチキータをしてこなくなりました。

——準決勝から決勝まで少し時間が空きました。

**丹羽** 練習会場の上の観客席のところ  
で30分くらい寝てました。試合前の練習は15分くらい軽くしました。もう決勝まで行って、ある程度目標は達成されていたので、リラクセスしました。決勝のあの(スポットライトを浴びる)より

より粘りはなかった。

——以前の全日本で、「水谷選手と試合する時にはラリーになったら負けるから、早めに決めなければ勝てない」というコメントをしたけど、前より力がついてラリーでも自信がついてきたのかな。

**丹羽** 前はそうでした。今回も途中までは2球目・4球目、3球目・5球目で早めに決めようとして、焦っていた。ただ、今回は前よりも少し余裕があった。ほとんどぼくから攻めていたので、1-3で負けている時も自分が凡ミスをしなれば挽回できるかなと思って

## 今回全日本で優勝しましたが、 オリンピックの悔しさは 全然消えていない。 オリンピックの悔しさは オリンピックで返したいと思っている

入場がやりたかったです(笑)。

——水谷(beacon・LAB)選手との決勝。出足はどうでした？

**丹羽** いつもと同じ感じでした。1-3になるまでは、自分から攻めすぎていて、2球目、4球目で決めようとしていた。最後のほうは攻めていても早めに決めるやり方はしなかった。バックに打ったらカウンターはないし、6、7ゲーム目になったら相手も絶対緊張してくるから、こっちから先に仕掛ければいい。水谷さんは守っている時も前

ました。

——後がない5ゲーム目で8-3とリードしていたけど、そこからじりじりと挽回されて、8-7になったところでタイムアウトを取った。

**丹羽** タイムアウトを取って、その次の1本を水谷さんが凡ミスをしてくれたのが大きかった。邱さんからはフォア前に来たサーブはフォアでフリックするように言われました。(水谷の)フォアへのフリックは結構効いていました。8-7でそれを使って水谷さ

んがミスをしてくれた。健太さんの時にも邱さんが8-7でタイムアウトを取って11-7で勝ったりと、すごいですね。

水谷さんは試合に出ていなかったの  
で試合感覚が戻ってなかったと思う。  
試合に出ているなら今回勝てなかった  
と思います。いつもと違いました。NT  
(ナショナルチーム)合宿では本当に強  
くて、誰も勝てなかったし、強いな  
思ってたけど、試合になったら違いま  
たね。結構サーブを散らしてきた。  
ぼくのフォア前にサーブを出して、  
それでぼくは点を取られていたのに、  
バック前に出してきたりとか、最後は  
徹底していなかった。自分としてもや  
りやすかったし、ずっとフォア前に出  
されたら危なかった。

——そこで流れが自分に向いてきたと思いましたが？

**丹羽** 5ゲーム目を取って2-3になつた時には、次のゲームで水谷さんは絶対集中してくるなと思った。6ゲーム目の出足で2本ブツ切りのサーブを出されて、0-2でスタートして、次の1本、水谷さんにバックハンドでフォアをぶち抜かれて0-3、強気なプレーをしてきた。ただ水谷さんは打ち急いでいるようにも見えて、凡ミスも出ているゲームは11-5で取りました。

——5-5から一気に11-5で取って、最終ゲームに入ったけど、流れとしては丹羽君だった。

**丹羽** 結構自分のプレーができていて、

サーブを持ってたらず、間合いも取らずに出していた。いつもよりも(間合いは)全然早かった。

——最終ゲームまで行った全日本決勝では過去最短の時間かもしれない。43分で終わっている。でも内容はハイレベルで濃いものだった。3-3になった時に優勝がちらついたりした？

**丹羽** 結構考えました。勝ったら倒れようかな、何かしようかなと思ったりしたけど、最後は甘いボールがいつか「点を取られた」と思ったので、少し遅れてガッツポーズをしました(笑)。

——その最終ゲームでの作戦はどういうものだったんだろう。

**丹羽** バックに行ったらブロックしかないの、それをオールフォアで攻めようと思いました。フォアに打つたらいつもカウンターで狙ってくるのにブロックになってるので相当びびっているのかなと思った。勝つ自信はなかったけど、去年の吉村さんの試合を見ていたのであわてなかった。

7-7から水谷さんが簡単にミスしていたので、本当にラッキーだった。いつもの水谷さんなら入れてくるボールなのに、やはり試合感覚がなかったのかなと思います。10-7で先にマッチポイントを取った時には勝つたかなと思っただけですが、次にボールがネットインになり、転んだんですね。10-8で次のボールもフォアにフリックして打たれて10-9になったので、最後はチキータで、自分の得意な技術に賭けようと思いました。



——勝った瞬間はどうでした？

**丹羽** 1-3で負けていたので優勝した実感はなかった。水谷さんには全日本で2回負けていて、まさか決勝で勝って優勝できるとは思わなかった。今大会、決勝だけでなく、すごく強質なプレーができていた。ダブルスの時もすごく調子が良かったし、最終日は本音が良かった。

水谷さんは負けた後もそんなに悔しそうじゃなかった。去年を見ていたので、今日はどうしたんだろうと思いましたが、表彰式の時に普通にならなくて良かったです。

——以前は水谷選手は相当丹羽君に対して闘志を出してきたけど。

**丹羽** 以前、卓球王国にかなり書かれて、「ええ、どうしたんだろ」と思いました(笑)。ぼくは何とも思っていないけど。そう思ってもらえるだけ、ぼくはありがたいです。

それは別物です、

全く別です。

リオでメダルが獲れなかったら全く意味がないです

## 集中力

の差があり、集中力が切れて簡単に負ける時もあるが、集中した時にはとつもないプレーができる時がある。それも丹羽孝希の天才気質の一端かもしれない。しかし、青森山田高の板垣孝司監督はこう証言する。「今回の全日本の丹羽は今までと違う。1月2日から青

森で練習を始めたけど、高い集中力でのすごい練習をするけど続かないのが今までの丹羽。ところが、今回は集中力が続いた。自ら積極的に多球練習に取り組んでいた」。

## 最後はチキータで、自分の得意な技術に賭けようと思いました

森で練習を始めたけど、高い集中力でのすごい練習をするけど続かないのが今までの丹羽。ところが、今回は集中力が続いた。自ら積極的に多球練習に取り組んでいた」。

丹羽を変えたのは、五輪での悔しさだったのか、ドイツという新しいプロ環境だったのか、それとも全日本優勝への渴望感だったのか。

——実際にチャンピオンになってどうでしょう。

**丹羽** 別にチャンピオンになっても変わらないです。今回の全日本で勝つても次の大会で負けたら意味がないと思っています。

——さっき言っていたけど、これだけの優勝をしてもオリンピックの無念は晴れていない？

**丹羽** それは別物です、全く別です。これでリオ(2016年)でメダルが獲れなかったら全く意味がないです。

——オリンピックまでの4年間は長いようで短い時間だね。次の自分の目標は？

**丹羽** これからはブンデスリーグに出て、ワールドツアーはそれほど出られないけど、出られる時にはしっかり勝ち上がっていききたい。今まではただ単

に試合にたくさん出て上がっていっただけなので、これからは自分の実力でランキングを上げたいですね。ボルとかオプチャロフも1、2回しっかり出てランキングを上げていっているの、ぼくも出る大会でしっかり勝って、これからはランキングもオリンピックの選考にも関係してくるので、しっかり世界ランキングを上げたい。

やはり中学2年の時に7人目で横浜の世界選手権に選ばれて、あれが横浜じゃなかったらぼくは選ばれていないから、全然違ったと思う。あの頃は世界ランキングが400位くらいだったけど、横浜に出たことで自分自身、世界を目指すきっかけになった。

——今は成長が早くて、いろんな技術を次々に覚えている過程かもしれないけど、丹羽孝希の最終形のスタイルはどういうものだろう？

**丹羽** 今はパワーがないのでサーブス、レシーブをどれだけ効かせて早い段階で勝つかというやり方だけど、将来的にはパワーもつけてラリーでも勝てるようになればプレーの幅も広がると思います。今回はボールが走っていたし、少しパワーがついてきたと思うけど、まだまだですね。

——相手が中国選手とかトップ選手に

なると国内では一発で抜けるボールも抜けないでしょ？ただサーブス、レシーブがいいとか、速いだけじゃ勝てない。

**丹羽** ラリーで勝てないと精神的に余裕が持てないのできついです。馬琳とやってもサーブスは効くけど、最後は長くツツキをされてそこからラリーで負けてしまう。サーブス、レシーブだけじゃ限界があります。

——ひとつ聞きたいけど、トップ選手同士はいつも練習したり、試合で当たったりするのに、大会になると丹羽君のサーブスが効くというのはなぜなんだろう。

**丹羽** 結構出し方が適当なんで、その試合、試合で出し方が変わったたりするんですよ。それに3球目を打っていったら、相手にプレッシャーがかかるので、余計にサーブスが効いてくる。逆にぼくが馬琳選手とやる時には3球目のプレッシャーがやばいんで、レシーブがうまくできない。中国選手はそのプレッシャーがやばいんです。

——春に高校を卒業して明治大に入学生するし、ブンデスリーグもあります。新しい環境になります。

**丹羽** 青森はとても楽しかったし、卒業は寂しいけど、これからは明治とトレンセンとドイツがあって、その三つの環境を活用できれば大丈夫だと思っています。頑張ります。

——今、自分の練習の中で大事にしてるところ、課題は何だろう。

**丹羽** 練習の時には結構台から下がったり、いろいろ試していますが、青森山





#### Profile にわ・こうき

1994年10月10日生まれ。北海道・苫小牧市出身。卓球選手だった父の影響で7歳で卓球を始める。08年全国中学校大会優勝、10・11年インターハイ優勝。10年ユース五輪ではシングルスと混合団体で金メダル獲得、11年世界ジュニア選手権優勝。12～13年シーズンから、ドイツ・ブンデスリーガ男子1部のフリッケンハウゼンでプレーしている。平成24年度(13年1月)全日本選手権では初優勝を果たした。12年世界団体選手権3位、12年ロンドン五輪初出場(団体)。世界ランキング21位(2013年2月現在)。青森山田高3年

卓球同様、丹羽の語り口は歯切れがよい。インタビュでも言いよどむことなく、自分の考えを口にできる選手だ。ユース五輪優勝もそうだが、この選手を一躍有名にしたのは、12年4月のロンドン五輪アジア予選で当時世界ランキング1位だった馬龍(中国)に完勝した試合だろう。予期できないプレーや冷静な試合ぶりが、中国の精密機械を狂わすことがある。

もつと感激してもいいのと思わせるほど、全日本優勝による高ぶりを見せない丹羽孝希。彼が本気で目指す五輪のメダルを考えれば、この国内最高峰制覇さえも、エベレストを登るための通過点にしか過ぎないのかもしれない。世界の高みに立った時、この天才はその感激をどう表現してくれるのだろうか。

(文中敬称略)

田の時には24時間練習場を使えるので、夜練(よるれん)やったりしたし、特に中学の時には水谷さんや健太さんと一緒にできたのが良かった。今は自分が一番上なので、ドイツに行って自分より強い選手とやるのがとても大切なことです。

正直言うと、集中力とかは自分でもコントロールできないんです。ジャパンオープン(12年)でもシバエフ(ロシア)に8本、3本、3本で負けたりと

か、この間もポーランドオープンでボチーカ(イタリア)に0-4で負けました。急に集中力が切れてどうでもよくなったりする一方、集中できる時には自分でも驚くほどのプレーができたりする。大きな大会になったら集中できると思うけど、ワールドツアーや小さな大会になった時のモチベーションの維持はまだまだ甘いかなと思う。試合がないと練習でも遊んでしまいます。

——最後に、どんな選手になりたいですか。丹羽孝希の目指すところはどこでしょう。

**丹羽** 今世界ランキング22位(1月時点)だけど、これから世界ランキングを上げるためには、サービス、レシーブだけでは厳しいと思うし、中国選手と戦ってみると、他の人が見ている以上に力の差を感じたり、相手の強い部分が変わる。ましてや世界選手権やオ

リンピックで勝つことになるともっと厳しい戦いになると思う。去年のこの時期は23位で今22位だから全然成長していない(笑)。一度15位まで行ったんですけど、オリンピックの後に大会に出てなかったら22位まで落ちた。この1年間で1しか上がっていない(笑)。

将来的には、4年後のリオのオリンピックで、日本のエースとして出て、シングルスでメダルを獲りたい。水谷さんが世界ランキングで5位まで行ったので、その上に行きたい。でも、まずはトップ10に入りたいですね。

——今日はありがとうございました。

同じ大会の同じ優勝でも  
意味が全然違う。こんななに違う  
ものなのかというくらい。  
今回は新しい腕での  
初勝利だった



インタビュー=今野昇 *interview by Noboru Konno*  
写真=渡辺壘・江藤義典 *photographs by Rui Watanabe & Yoshinori Eto*

「これで取らないと最後だ」というのが全くなかった。すぐく伸び伸びとできた。今までの全日本とは違う

## 福原愛

は全日本選手権が終  
わってからインフル

エンザにかかってしまい、しばしの休養を余儀なくされた。インタビューができたのは2連覇を達成してから2週間ほど経った日の昼。顔色も良く、すっかり体調も戻っていた。

◆ 全日本優勝から2週間ほど経ちましたが、実感はどうでしょう？

福原 今回は最初から最後まで全日本という感じが全然なくて、最後の決勝の時に「全日本かな」と少し思ったくらいです。

—なぜだろう。

福原 会場が違ったからかな……。

—そんな理由？

福原 ハハ(笑)。

—今までの全日本はプレッシャーとの戦いが大きかったけど、前回の優勝でそこから解放されたのかな。

福原 確かに去年みたいに緊張はしていなかった。1試合目から試合中は真剣に集中しているけど、初日の酒井(四天王寺高)さんとの試合が終わったなら、試合がおもしろい、楽しいと感じたんですよ。手術後にリハビリして、12月のワールドツアー・グラントファイナル(中国)は復帰戦だったけど、1試合しかできなくて、今回は勝っていい



全日本2連覇なのに、それは「新生・福原愛」の快挙。そう言いたくなる。8月に右ひじの手術をして、ラケットを握ったのは11月4日。五輪後にリセットされた新しい愛ちゃんは、センターコートで優勝の笑顔を見せた。

ばたくさん試合ができるし、思い切ってプレーできる、ラケットを振れるのがうれしかった。勝つてうれしいという気持ちよりも、「また明日試合ができる」という感覚で、それは今までにない感覚でした。

——1年前の全日本選手権で長い間抱えていた重圧から解き放たれ、この1年間で<sup>ひとかわ</sup>一皮むけた感じもあるのだろうか。

福原 前回の優勝と今回の優勝は全然違っていて、「泣いている私」と「笑っている私」というくらい違う。前回は「やっと(タイトルを)取れたー」という感じで、今回は去年も優勝しているし、連覇したいという気持ちが必要以上になかった。手術明けだったから伸び伸びできました。

——チャンピオンのタイトルを守るといふ重圧もなかったのか？

福原 全くそういふのは感じなかったです。ただ第1シードなので、前回優勝したんだなというくらい。一度(タ

イトルを)取ったからしがらみもなくなって、「取らなきゃいけない」とか「これで取らないと最後だ」というのが全くなかった。すごく伸び伸びとできた。今までの全日本とは違う。いつも全日本前は眠れないとか、食べられないというのが続くけど、今回は大会前から余裕があって、「これでいいの?」と自分に問いただすくらいだった。もう少し緊張したほうが良いかなと思うくらいでした。

——今回も大会前は中国で合宿ですか。

福原 そうです。前回のほうが良い調整でした。100%の練習ができたし、これでタイトル取れなかったらしょうがないという感じだった。今回は手術したし、復帰戦のグランドファイナルは1試合しかしていないし、全日本は2大会目だった。自信は全然なかったけど、それが良い方向にいったかもしれない。最初の試合から緊張しなかった。負けるとか勝つというのを意識し

ていなかった。

全部で6試合したけど、最初の4試合は楽しいと感じながらプレーできた。準決勝からの2試合、藤井(寛子)さんと(石川)佳純<sup>かすみ</sup>ちゃんはNT選手だから自分がどれだけ戻っているのかを実感できる。手術する前も勝つたり負けたりの手相手だから。本当にその2試合は伸び伸びできました。

——準決勝の藤井さんは全日本で一度負けている相手です。苦手意識は？

福原 そういうことは考えてないです。最後に藤井さんとやったのはトップ12で負けた試合。その時は前の日、胃腸炎で寝ていて、「あの時は胃腸炎だったし、今の自分は胃腸炎じゃないから」と言い聞かせていた。今

## THE CHAMPION INTERVIEW

2

Women's Singles WINNER

# 福原愛・ANA

# Ai Fukubara



回は1試合ごとに自信をつけて、さらに藤井さんに勝って大きな自信を得た感じでした。

**今回の佳純ちゃんは強そうだなと思いました。だから1ゲーム目取られた時にやっぱり強いなと**

## ロンドン

五輪の結果を見ても、世界ランキングという国際的な指標からしても、今の日本女子の中で福原愛と石川佳純は抜きん出ている存在と言えるだろう。

その二人が2年連続決勝で対峙した。福原の速攻と変化、石川の両ハンドのドライブ攻撃のぶつかり合い。男子決勝同様、それは世界水準のラリーだった。

——2年連続石川選手との決勝、五輪ではチームメイトだった。

福原 はじめから佳純ちゃんが来ると思っていたし、佳純ちゃんと試合をするのは嫌じゃない。勝っても負けても自分がどれだけの状態なのかを測れるし、自分のやっている練習があっているかどうかを測れる。佳純ちゃんとはコンスタントに試合をしているので今の自分の状態がわかるし、試合が終わると勝っても負けても収穫のある試合になるんです。

——決勝に入る時には1年前のことを思い出した？

福原 思い出しましたね。会場は違っただけ、雰囲気は似てるなど。試合の1ゲーム目を取られて、佳純ちゃんはやっぱり強いなと思いました。大会の初日に記者会見があって、佳純ちゃん「今回は練習をやり込んできました」という内容を話していたから、隣で聞いていて、今回の佳純ちゃんは強そうだなと思いました。だから1ゲーム目取られた時にやっぱり強いなど。本当にしっかり練習してきて、(全日本に)合わせてきたんだなと思いました。

——1ゲーム目は6オールから5本連取されたけど、2ゲーム目は0-2から7本連取、11-7で取り返している。

福原 2ゲーム目は取らないといけないと思えました。佳純ちゃんは今回強かったし、私自身は自信がなかった。前は100%の自信があったけど、今回はトレーニングコーチの中野(ジュームズ修一)さんに中国まで来ていただいても、オリンピックと比べたら90%くらいまでしか戻らなかった。残りの10%は自信がない部分で、それは自分の技術や精神面もそうだし、1-1にゲームを戻したけど、まだ負けている感じだった。

——3ゲーム目はいきなり石川選手が6-0とリードしてゲームを決めました。決勝のキーゲームは4ゲーム目でした。

福原 全体的にサービスは良くなかった。小野(思保)さんと試合をしている時に首を傷めて、次に藤井さんと試

合をして帰ってきたら左が向けない状態になって、決勝の前にコーチのさんに「左向けない」と言ったら、「左(利き)と当たる時には左向かなくていいの」と訳わからないことを言われた(笑)。佳純ちゃんもボコボコと飛んでいくサービスにびっくりしたのかも。

——4ゲーム目、6-6から8-6とリードしたけど、8-9に逆転され、9-9になったところで石川選手がタイムアウトを取った。この辺が心理戦というか、駆け引きもあり、この決勝の最大のポイントだった。

福原 このゲームを落としたりやられていましたね。正直、何で今ここでタイムアウトなんだろうと思った。佳純ちゃんはそのほとんど(タイムアウトを)取りかけたのかなど。1回佳純ちゃんはサービスの構えをしてから(タイムアウトを)取ったから、あれっ?と思いましたがね。張さんとはレシーブの確認やしジュースになったらこういうサービスを出そうというような話をしました。私は自分がタイムアウトを取っていないからちょっと余裕があるというか、もし9-10になっても自分は取れるわけだから。

——この4ゲーム目を11-9で取って、試合の流れは福原さんに向いていった。5ゲーム目の4-4の時、石川選手がサービスの構えをした後、ボールが転がったのでサービスミスのように一瞬見えて、少し間が空きました。

福原 佳純ちゃんがサービスの構えを

してからボールがコロコロと転がった。私は目で審判を見たんだけど、佳純ちゃんはまだ(トスを)上げていないと言っていました。

——あのシーンは微妙だった。二人にも心理的な影響があったのかなと思いました。

福原 あれで流れが自分に来たと思えました。振り返れば、あの1本が、私がいいことをしたんじゃないけど、あとで返ってくるように思った。他の人のために何かするとか、譲るとかすると、あとでいいことが返ってくると思っただけ。

——でも、選手は大事な試合だから誰もが勝ちたい。抗議することもできなかったしなかった。逆に、福原さんのほうがモヤモヤしてもおかしくない場面でした。

福原 そういう気持ちは残らなかった。あの時に冷静な自分があるとふと思っただけです。あそこで抗議する気持ちはなかったし、佳純ちゃんと一緒にロンドンを戦った仲間だから争いごとはしたくなかった。でも、空気というか風が自分に来た感じがしました。

——5ゲーム目を取り、そして6ゲーム目は出足でいきなり6-1と離れた。福原 佳純ちゃんは1回タイムアウトを取ったので、佳純ちゃんが流れを変えることは難しいとわかっていたので、そこは自分が戦術を考える要素になりました。

——11-3で優勝を決めた瞬間は、泣



オリンピックピクが終わって  
すぐに手術をしていただけたので、  
自分の中で本当の意味でリセットできた





いてしまった去年とは様子が違いまし  
たね。

**福原** 今回は「やったー」という感じで  
した。9-3、10-3の時に（優勝は）  
ちよっと考えました。でも、ダメだダ  
メだと。勝った瞬間は自分でも信じら  
れなくて、「えっ、ホントに？」という  
感じでした。

手術もしたので本当に優勝できると  
思っていなかった。ガチガチに緊張し  
ていたわけでもないし、今回はシング  
ルスだけの出場で、エントリーの時点  
ではどこまでできるかわからなかった  
し、ただ世界選手権に向けて全日本は  
出たいと思っていた。全日本独特の緊  
張感、全日本でしか味わえないから、  
その緊張感を味わうことによって世界  
選手権も良いプレーができると思っ  
ていた。だから、手術が終わって、9月  
の時は最初の試合で負けてもいいから  
全日本に出たいと思いました。

**リセットするために、  
手術をして24歳になるまでは  
ラケットを握らなかった**

**ロンドン** 五輪直後の8月  
24日に、福原は

この2年間痛みに耐えてきた右ひじを  
手術した。苦しいリハビリにも耐え、  
12月にはワールドツアー・グランドファ  
イナルで復帰。復帰2戦目が全日本選  
手権だった。手術とリハビリを経て。  
福原は今まで見えなかったもの、感じ  
ることのなかった何かを感じていた。

8月24日の手術後の経過によって  
は全日本を棄権することも考えました  
たか？

**福原** それは考えてました。70%くら  
いは出ない方向でした。何もできない  
状態だったから。でも仮に1回戦で  
負けたとしても、観客のみなさんは  
ロンドンのプレーを見たいと思っ



プレッシャーから解放され、落ち着  
いてプレーをした福原。ベンチでア  
ドバイスを送るのは姉のような存在  
の張莉梓コーチ

観戦に訪れると思ったので、プレーし  
ている姿を見せたいという気持ちと、  
100%じゃないのに試合に出て、「な  
んだあの試合は」と言われるのかなと  
いう両方の思いがありました。

——五輪が終わると燃焼した感じにな  
り、虚脱感を感じたり、メダリストだ  
から多忙を極める状態の中で、モチベー  
ションを高めるのは大変だと思う。口

ンドンのチームメイトだった平野早矢  
香選手は初戦で敗れました。

**福原** 隣で早矢香ちゃんがやっていて、  
負けていたけど早矢香ちゃんが勝つと  
思っていたのでビックリしました。私  
の場合もオリンピックで燃焼したし、  
正直、現役を続けるかどうか悩ま  
ました。でも早い段階で手術するのは  
決めていて、オリンピックが終わって

**Profile** ふくはら あい  
宮城県仙台市出身。3歳から卓球を始め、14歳の時に世界選手権パリ大会  
でベスト8、15歳でアテネ五輪に初出場し、ベスト16。12年1月の全日  
本選手権（平成23年度）で初めて一般の部で優勝し、パンビから一般までも  
の全種目優勝を達成した。ロンドン五輪では卓球界初のメダルを団体でも  
たらした。平成24年度（13年1月）の全日本選手権ではシングルスで2連  
勝を飾った。現在、世界ランキング8位（13年2月現在）、ANA所属

すぐに手術をしていただけたので、自  
分の中で本当の意味でリセットできた。  
今まで卓球をやって20年経って、全  
日本で優勝できて、オリンピックでメ  
ダルも獲れて、ちょうど一周した感じ  
で、オリンピックが終わってゼロになっ  
たんですよ。そのタイミングで腕の手  
術があったので、腕もゼロからだった  
んですよ。ゼロからコツコツ1試合ず

つ、1ゲームずつという気持ちで試合  
をしていたので、モチベーションとか  
はなかったし、変な固さはなかった。  
——リハビリは休養にはならなかった？  
**福原** オリンピックが終わって手術直  
前は思いっきり遊んだりしたけど、手  
術が終わってからはひとりでは生活で  
きない状態。ギブスは10日間くらいで  
取れたけど、腕は心臓より高い位置に  
置いてくださいと言われて、何もでき  
ない。それが1カ月くらい。腕は曲が  
らないし、伸びない。ご飯も左手で食  
べてました。

——オリンピックを経験するとどんな場  
面でも緊張しないと言う人もいるけど。  
**福原** もちろんオリンピックの舞台は  
特別だけど、自分の中では覚えてない  
んですよ。記憶としては覚えているけ  
ど、忘れようとしたというか、リセッ  
トしているから。リセットするために、  
手術をして24歳になるまでは卓球を始  
めなかった。ラケットを握らなかった。  
10月からはリハビリでトレーナーの中  
野さんにずっと見てもらって、早めに  
トレーニングも開始して、腕はもちろ  
んどだけど、下半身とかも鍛えたり、中  
野さんがいなくなったからこんなに早く復  
帰はできなかった。23歳で全日本で優  
勝して、オリンピックもメダルを獲れ  
たから、良いことは全部23歳という箱  
にしまおうと思った。

そして11月1日が誕生日で、11月4  
日が大安だったのでその日にラケット  
を握りました（笑）。感激しました。そ  
れに自分の体が動かないことにも感激



しました。「中野さんは車の本体を作る人で、愛は車を運転する人」と言われています。「中野さんは本体を作れるけど、車の運転技術は愛しただいだよ」と言われる。わあ、こんなボールが入らないとか、こんなボールが入る！とか。今までも腕を伸ばし切ることができなくて思い切つて振れなかったけど、バックスマッシュの練習をたくさんしたんです、うれしくて(笑)。

——福原さんはマスコミには言わなかったけど、どの辺から腕が痛くなっただろう。

福原 オリンピックの1年前のジャパンオープンくらいからだけど、その前のロッテルダムでの世界選手権(11年)の時から痛かった。今までは故障しても2、3日休んだら治っていたけど、ジャパンオープンの時にはケアを受けていて、腕も伸ばせないし、握手もできなかった。右ひじ滑膜ひだ障害(右ひじ柵障害)で、関節を守る滑膜というひだがあって、それが20年間卓球をしてきたことによって、疲労してひだが腫れて、そのひだの一部が関節の中に挟まって、腕を伸ばすたびに押しつぶされるんです。バックハンドやフォア前で腕を伸ばすと痛かった。その挟まったひだに向かって痛み止めの注射を打っていた。手術は全身麻酔を行い、そのひだの部分切除しました。

——11月4日に卓球を再開して、五輪の時のイメージに自分のプレーや動きを戻していくわけですね。

福原 オリンピックのイメージが良

くて、「これは何なんだ！」というのがずっとあった。筋肉痛もひどかった。卓球でしか使わない筋肉があることもわかった。卓球を始めてから初めて3カ月休んだから、卓球ってこんなに筋肉を使うんだと思った。痛いところにマジックを塗ったら全身真っ黒になるくらい、筋肉痛で寝られなかった。ひじの可動域も戻らなかった。今の時点でも完璧には戻っていないし、1年間くらいかかると言われています。

——そういう中で優勝だから自信になったでしょう？

福原 すごく大きな自信になりました。

## 「23歳で全日本で優勝して、オリンピックもメダルを獲れたから、良いことは全部23歳という箱にしまおうと思った」

それに、まわりのサポートを改めて実感しました。世界選手権で100%にしようと思っていたから、これだけ短期間で戻ってこれるとは自分でも想像しなかった。まわりの人に感謝ですね。

——この2回目の全日本優勝の意味は何でしょう。

福原 前回の全日本優勝をパズルにたとえると、ミッキーマウスのパズルで顔の部分に最後のピースが入って、そのままオリンピックに臨めた。今回は自信がないので、しゃきんと立ってなくて、グラグラしてる感じを神様が

優勝という自信を与えてくれて、「まだやれるよ」と言ってくれた感じ。同じ大会の同じ優勝でも意味が全然違う。ホントに全然違う。こんなに違うものなのかというくらい。今回は新しい腕での初勝利だった。

——1年前の全日本優勝は何かを振り切った勝利で、その1年後に2回目の優勝。その間にオリンピックのメダルもあつたから、忘れられない1年になった。

福原 優勝した時に、これでオリンピックのメダルを全日本の金メダルではさめると思って、それがすごくうれしかった。

た。1回だけ優勝していると、その時の一瞬は優勝者じゃないですか。1年間経つてもう1回優勝できたということとは、この1年間優勝者でいることができたというイメージがある。1年間頑張ることができたんだと思えた。

——世界選手権が5月にパリで開かれます。10年前に福原さんは同じパリ大会でベスト8に入った。国際舞台での記念すべき大会でした。

福原 巡り合わせじゃないけど、何か一周してリセットして、そしてまたパリ大会。何かおもしろいと思います。

パリの世界選手権があつたから今回の全日本も出場したいと思った。パリで世界選手権があると聞いた時から、パリには出たい、と思っていた。ということは必然的に現役を続けるということだから。10年前のパリ大会は14歳、中学3年生の時でした。

——あの人に、初めて「選手・福原愛」にインタビューしました。

福原 覚えています。あの時に、「もう福原はダメだと言われるのが怖い。結果を出せば出すほど怖くなる」と言っていました。

——その時から重い荷物を背負っていたんだね。パリ大会での健闘を祈っています。

福原 ありがとうございます。

会うたびに大人になり謙虚になっていく福原愛。でも「愛ちゃん」の明るさは昔のまま。今回の全日本優勝は望外の喜びとなったが、彼女の視野にクリアにとらえられているのは、5月の世界選手権大会。

それは10年前に彼女がアイドルからアスリートに脱皮した、フランスのパリの地で開かれる。一周してリセットした「旧福原」が「新福原」として二週目のスタートを切る格好の場所かもしれない。いや、もうすでに全日本選手権で彼女はリスタートを終えた。パリではパワーアップした福原を見せ、その笑顔が再び観客を魅了するだろう。パリはそんな約束の地になるかもしれない。

■(文中敬称略)